

令和 7 年

# 火災と救急・救助の概要



三木市消防本部

## 目 次

### [火災概要]

地区別発生件数	… 1	火災による損害額(5年間)	… 8
令和7年中の火災概要	… 2～3	管内出火件数・	
火災概要(対前年比)	… 4	損害額の推移(5年間)	… 8
地区別出火件数	… 5	出火原因別件数	… 9
月別火災種別出火件数	… 5	初期消火の状況	… 9
四季別出火件数	… 6	火災による死者数(10年間)	… 10
月別出火件数(5年間)	… 6	主な火災発生状況	… 10
曜日別出火件数	… 6	高速道路における火災発生状況	… 11
時間別出火件数	… 7	消防部隊出動状況(対前年比)	… 11
署別出火件数	… 7		

### [救急・救助概要]

令和7年中の救急・救助概要	… 12～14	事故種別救急搬送人員	… 19
救急出場件数	… 15	傷病程度別救急搬送人員	… 19
発生地区別出場件数	… 15	発生場所別救急出場件数	… 20
署別救急出場件数	… 15	事故種別年齢別搬送人員	… 20
救急出場件数の推移	… 16	性別科目別搬送人員	… 20
事故種別救急出場件数	… 16	高速道路における救急活動状況	… 21
月別救急出場件数	… 17	応急処置件数	… 21
曜日別救急出場件数	… 17	救助出動状況	… 22
時間別救急出場件数	… 18	地区別救助出動件数	… 22
現場到着所要時間別救急出場件数	… 18	発生場所別救助出動件数	… 22
病院収容所要時間別搬送人員	… 19		

〔人口・世帯数については  
令和7年12月末現在〕



# 令和 7 年中の火災概要

## 1. 概況

令和 7 年中の出火件数は 53 件で、損害額は 23,638 千円、建物焼損床面積 821 m<sup>2</sup>、林野焼損面積 42 a、り災世帯 9 世帯、り災人員 26 人となっています。

## 2. 出火件数

### (1) 出火件数

出火件数は 53 件（前年比 30 件増）で、6.9 日に 1 件の割合で発生しています。

出火率（人口 1 万人当りの出火件数）は 7.33 ポイント（前年比 4.18 ポイント増）となっています。

### (2) 火災種別毎の出火件数

その他火災 24 件（45%、前年比 17 件増）が最も多く、次いで建物火災 17 件（32%、前年比 4 件増）、車両火災 7 件（13%、前年比 5 件増）、林野火災 5 件（10%、前年 4 件増）となっています。

建物火災の内訳は、住宅 9 件、工場 2 件、その他建物 6 件となっています。

### (3) 死者・負傷者

令和 7 年中の火災による死者は 2 名（前年比 2 名増）、負傷者は 10 人（前年比 7 人増）となっています。

### (4) 焼損棟数

焼損棟数は 24 棟（前年比 5 棟増）で、全焼棟数は 6 棟（前年比 1 棟減）となっています。

### (5) り災世帯・り災人員

り災世帯は 9 世帯（前年比 2 世帯減）で、り災人員は 26 人（前年比増減なし）となっています。

### (6) 焼損面積

建物焼損床面積は 821 m<sup>2</sup>（前年比 252 m<sup>2</sup>減）で、林野焼損面積は 42 a（前年比 33 a 増）となっています。

### (7) 出火原因

出火原因は、「たき火」が19件、「たばこ」が5件、「電気機器」「放火」が各3件、「排気管」「マッチ・ライター」が各2件、「こんろ」「ストーブ」「電気装置」「電灯・電話等の配線」「配線器具」「火あそび」が各1件、「その他」が10件、「不明（調査中を含む）」が3件となっています。

### (8) 損害額

火災による損害額は23,638千円（前年比64,644千円減）となっています。  
※損害額については、調査中2件を除く。

## 3. まとめ

令和7年中の出火件数は53件、損害額は23,638千円、火災による死者は2人、負傷者は10人です。

火災を防ぐためには、一人ひとりが防火に対する意識を持ち、少しでも知識を身につけることが大切です。

近年、たき火からの火災が多く発生しています。たき火が火災に発展する原因は、風にあおられて拡大するものや、その場を離れたことが主なものです。たき火など火を扱う行為を安易に考えず慎重に実施することが大切です。

住宅防火対策として、住宅用火災警報器が設置されていたことで、火災を早期に発見でき大事に至らなかった奏功事例もあることから、継続して住宅用火災警報器の設置及び維持管理について啓発していきます。

## 火災概要（対前年比）

出火件数は前年と比べ３０件増加。火災種別ではその他火災が１７件、車両火災が５件、建物火災と林野火災が４件増加しています。

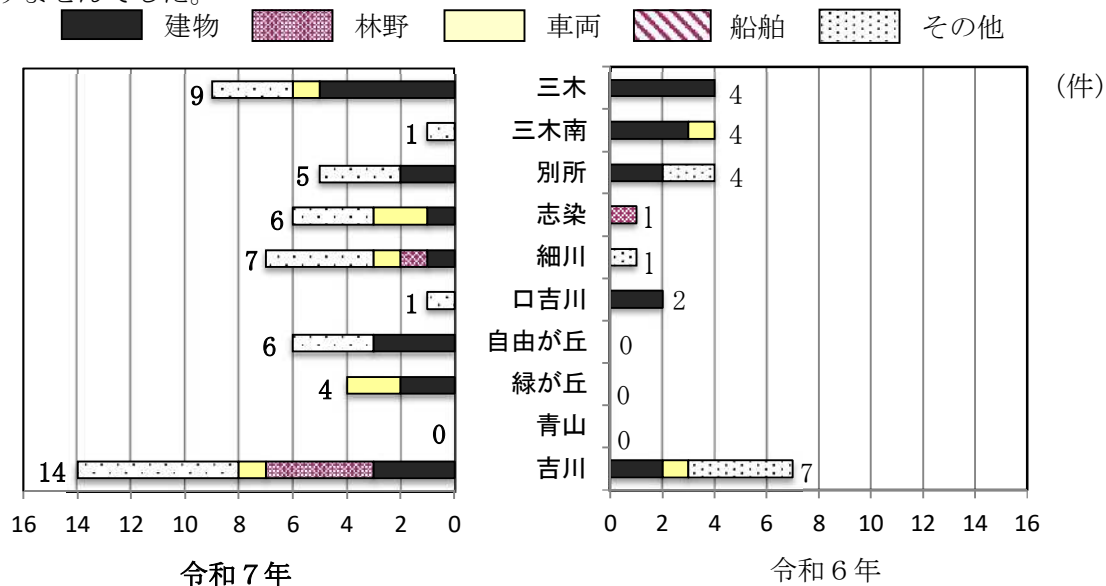
区 分				単 位	令和 7 年	令和 6 年	増 減
出 火 件 数	建 物			件	53	23	30
	内	住 宅	〃	9	7	2	
		工 場	〃	2	3	△ 1	
		その他	〃	6	3	3	
	林 野			〃	5	1	4
	車 両			〃	7	2	5
	船 舶			〃	0	0	0
	そ の 他			〃	24	7	17
	損 害 額	建 物			千円	23,638	88,282
内		建 物	〃	16,133	87,811	△ 71,678	
		収 容 物	〃	3,122	40,248	△ 37,126	
林 野			〃	0	0	0	
車 両			〃	1,268	463	805	
船 舶			〃	0	0	0	
そ の 他			〃	6,228	8	6,220	
爆 発			〃	9	0	9	
建 物 焼 損 棟 数		棟			24	19	5
	全 焼			〃	6	7	△ 1
	半 焼			〃	1	0	1
	部 分 焼			〃	14	5	9
	ぼ や			〃	3	7	△ 4
爆 損	損害棟数			棟	0	0	0
	車両等数			台	0	0	0
焼 損	建物床面積			m <sup>2</sup>	821	1,073	△ 252
	建物表面積			m <sup>2</sup>	75	131	△ 56
	林 野			a	42	9	33
	車 両			台	9	2	7
	船 舶			艇	0	0	0
負 傷 者				人	10	3	7
死 者				〃	2	0	2
り 災 世 帯	世帯			9	11	△ 2	
	全 損			〃	3	2	1
	半 損			〃	0	0	0
	小 損			〃	6	9	△ 3
り 災 人 員				人	26	26	0
建物 1 件当りの損害額				千円	949	6,755	△ 5,806
〃 焼損床面積				m <sup>2</sup>	48	83	△ 35

※損害額については、調査中の２件を除く。

△ 印は減少

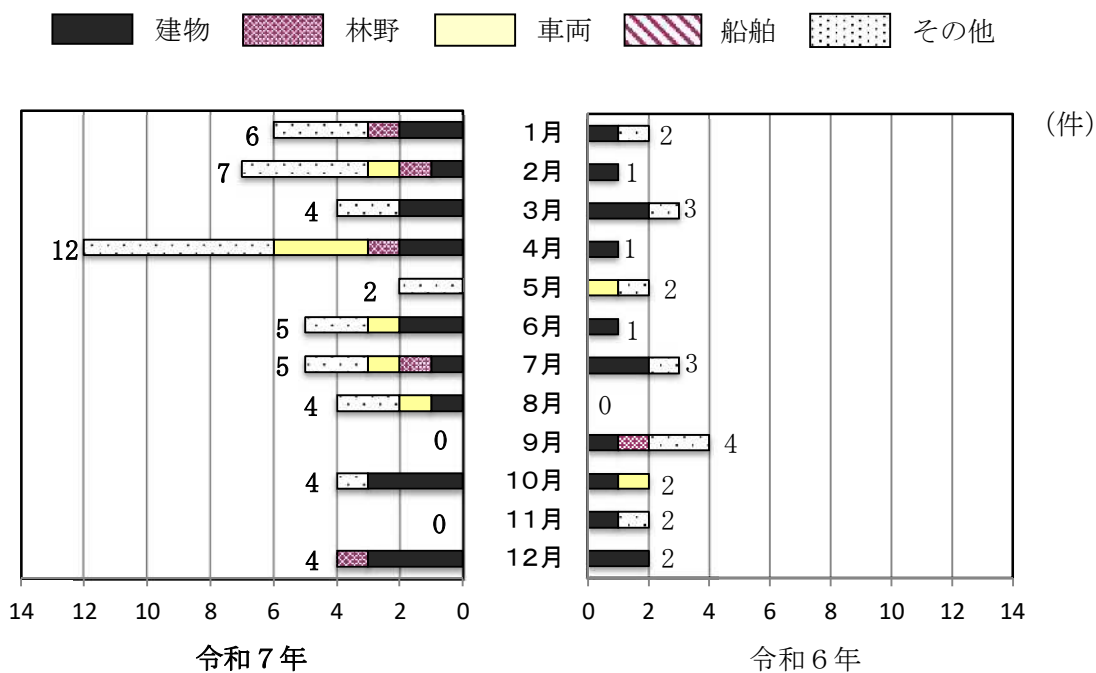
## 地区別出火件数

前年と比較すると、三木地区、別所地区、志染地区、細川地区、自由が丘、緑が丘、吉川地区が増加、三木南地区、口吉川地区が減少、青山地区は増減がありませんでした。



## 月別火災種別出火件数

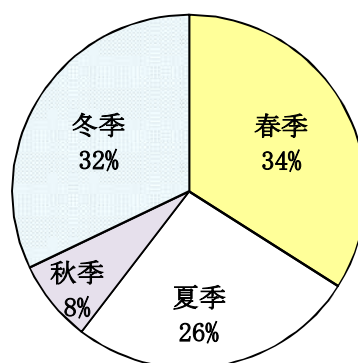
前年と比較すると、1月・2月・3月・4月・6月・7月・8月・10月・11月・12月が増加し、9月・11月が減少、5月は増減がありませんでした。



## 四季別出火件数

春季(3・4・5月)	18 件
夏季(6・7・8月)	14 件
秋季(9・10・11月)	4 件
冬季(12・1・2月)	17 件
計	53 件

出火件数比率

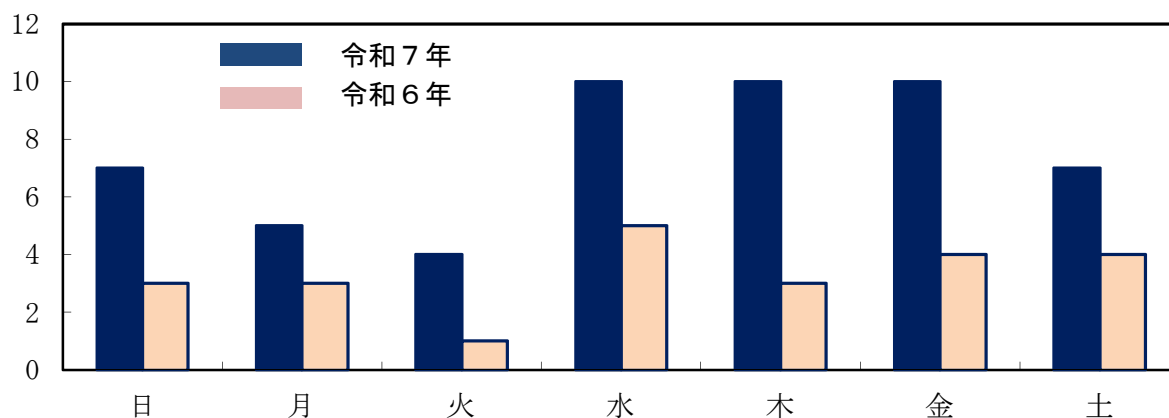


## 月別出火件数（5年間）

年 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
令和7年	6	7	4	12	2	5	5	4	0	4	0	4	53
令和6年	2	1	3	1	2	1	3	0	4	2	2	2	23
令和5年	4	4	8	5	3	1	1	3	1	1	5	2	38
令和4年	8	6	2	10	4	5	0	6	0	1	1	4	47
令和3年	4	3	4	1	3	0	1	0	3	5	1	1	26

## 曜日別出火件数

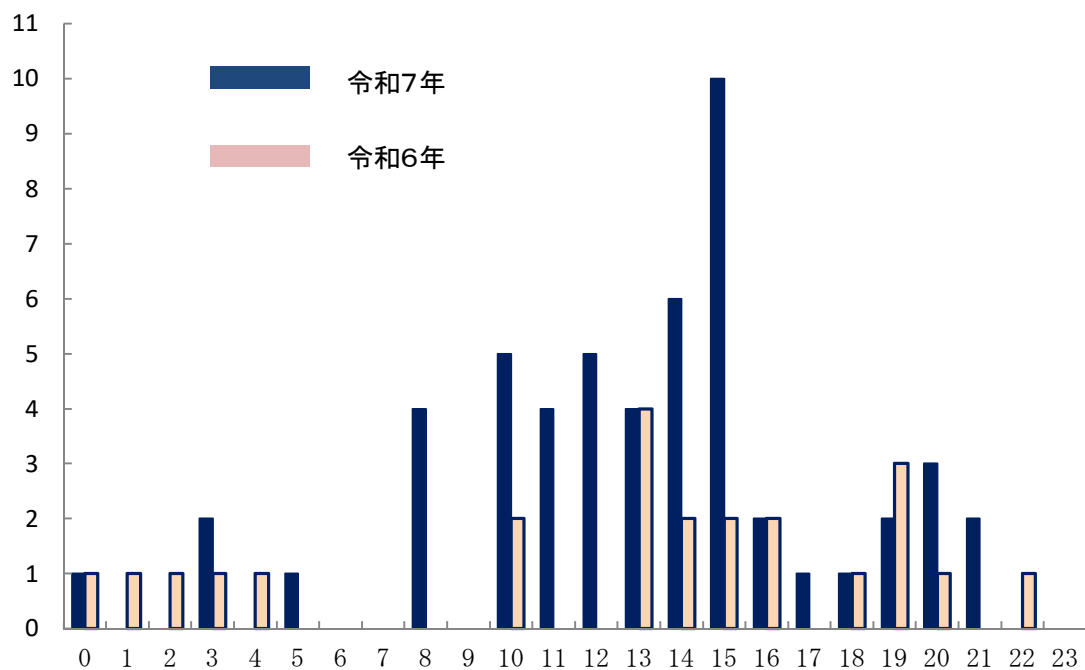
水曜日・木曜日・金曜日（10件）に多く発生しています。



年 \ 曜日	日	月	火	水	木	金	土	合計
令和7年	7	5	4	10	10	10	7	53
令和6年	3	3	1	5	3	4	4	23



## 時間別出火件数



時間 年	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	合計
令和7年	1	0	0	2	0	1	0	0	4	0	5	4	5	4	6	10	2	1	1	2	3	2	0	0	53
令和6年	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	4	2	2	2	0	1	3	1	0	1	0	23

## 署別出火件数

本署は火災件数が15件、広野分署は7件、吉川分署は8件増加となっています。

種別 年 署別	建物		林野		車両		船舶		その他		合計	
	令和7年	令和6年	令和7年	令和6年	令和7年	令和6年	令和7年	令和6年	令和7年	令和6年	令和7年	令和6年
本 署	8	6	1	1	4	1	0	0	13	3	26	11
広野分署	5	3	0	0	2	0	0	0	3	0	10	3
吉川分署	4	4	4	0	1	1	0	0	8	4	17	9
合 計	17	13	5	1	7	2	0	0	24	7	53	23

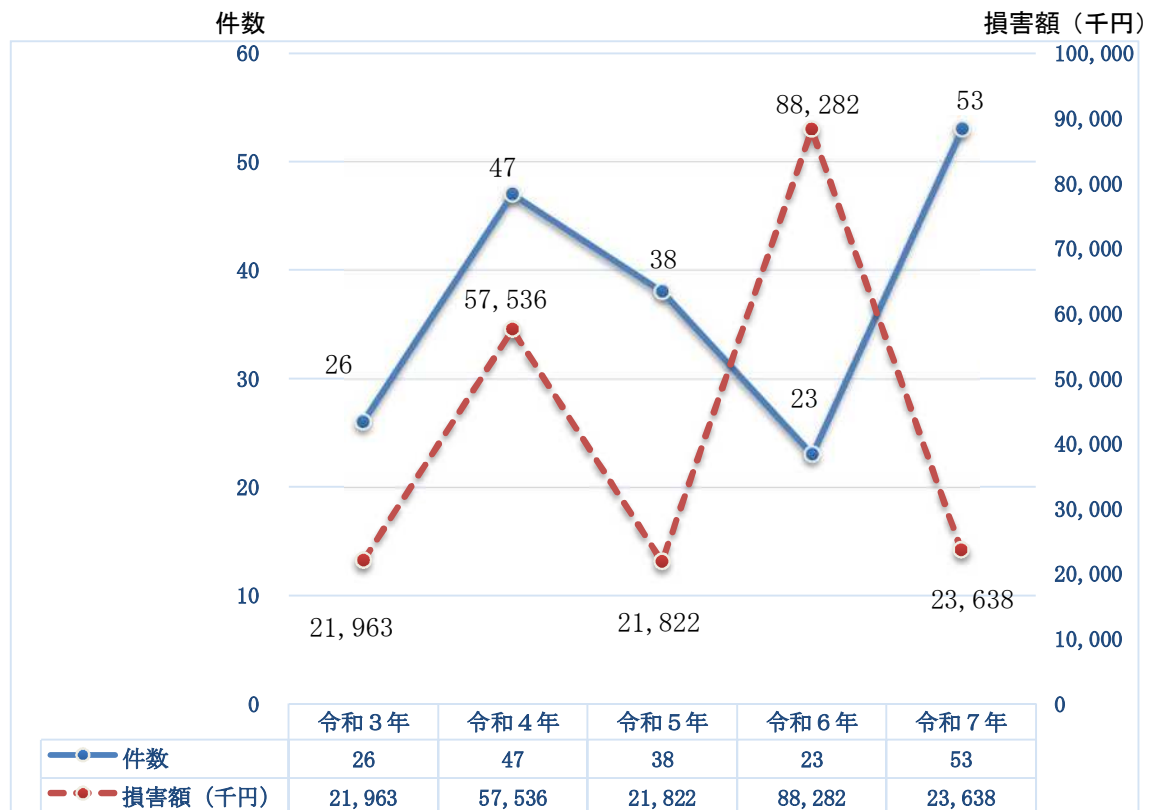
## 火災による損害額（５年間）

（損害額単位：千円）

年		令和 7 年	令和 6 年	令和 5 年	令和 4 年	令和 3 年
火 災 損 害 額		23,638	88,282	21,822	57,536	21,963
内 訳	建 物	16,133	87,811	1,106	44,603	21,405
	林 野	0	0	0	0	0
	車 両	1,268	463	12,968	10,873	10
	船 舶	0	0	0	75	0
	その他	6,228	8	7,748	1,985	548
	爆 発	9	0	0	0	0
1 件 当 り 損 害 額		446	3,838	574	1,224	845
出 火 件 数		53	23	38	47	26
内 訳	建 物	17	13	13	23	15
	林 野	5	1	1	8	3
	車 両	7	2	7	6	1
	船 舶	0	0	0	0	0
	その他	24	7	17	10	7

※損害額については、調査中 2 件を除く。

## 管内出火件数・損害額の推移（５年間）



## 出火原因別件数

出火原因は「たき火」の１９件が多く、全体の約３６％を占めています。

出 火 原 因	令和 7 年	令和 6 年
た ば こ	5	
こ ん ろ	1	
風呂かまど		
炉		
焼却炉		1
ストーブ	1	2
こたつ		
ボイラー		
煙突・煙道		
排気管	2	
電気機器	3	1
電気装置	1	
電灯・電話等の配線	1	1
内燃機関		
配線器具	1	
火あそび	1	
マッチ・ライター	2	
た き 火 ※ 1	19	6
溶接機・溶断機		2
衝突の火花		1
灯 火		
取 灰		
火 入 れ		
放 火	3	
放火の疑い		
そ の 他 ※ 2	10	4
不明（調査中含む）	3	5
合 計	53	23

※ 1

たき火欄 内訳	令和 7 年	令和 6 年
た き 火	9	4
虫 焼 火	10	2
合 計	19	6

※ 2

その他欄 内訳	令和 7 年	令和 6 年
その他の裸火（器に入っていないもの）	0	0
石油バーナ	1	0
火のついたゴミ	2	0
焼入金属	1	0
火工品（煙火を除く）	2	0
再燃により出火原因となりやすいもの	1	0
ブレーキライニング	1	0
ガスフライヤー	0	0
金属粉	0	0
液化石油ガスを用いる移動可能な道具	1	0
プロペラシャフト	0	1
赤熱した切粉	0	1
その他の静電スパーク	1	1
線香	0	1
合 計	10	4

## 初期消火の状況

令和 7 年は 5 3 件の火災が発生し、そのうち 3 6 件（ 6 8 ％）で何らかの初期消火を行っています。

項 目	令和 7 年		令和 6 年	
	実 施	有 効	実 施	有 効
消火器以外の消防用設備				
水 バ ケ ツ	4		2	1
消 火 器	12	6	6	3
水道・浴槽・汲み置きの水	10	7	7	3
寝具・衣類等をかけた				
も み 消 し た	2			
そ の 他	8	6	2	
合 計	36	19	17	7
初 期 消 火 な し	17		6	

## 火災による死者数（１０年間）

年 地区	令和7年	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年	平成29年	平成28年
三 木				3		1		1	1	1
三木南										
別 所									1	
志 染										
細 川					1	1			1	
口吉川										
緑が丘	1									
自由が丘				1						
青 山										
吉 川	1				1					
合 計	2	0	0	4	2	2	0	1	3	1
兵庫県	—	39	49	65	56	53	53	72	57	54
全 国	—	1,451	1,503	1,452	1,417	1,321	1,486	1,422	1,456	1,452

※令和7年の全国・兵庫県の統計について、現時点では発表されていません。

## 主な火災発生状況

発生 月日	火災 種別	覚知 時間	鎮火 時間	発生場所	火災状況
2/22	建物	21:54	23:39	緑が丘町東1丁目	一般住宅の一室が焼損し、死者1名発生
3/20	その他	21:13	19:00	吉川町金会	畦焼きが延焼拡大し、死者1名発生
8/19	建物	5:38	7:45	大塚1丁目	一般住宅1棟全焼
12/10	建物	20:34	翌7:51	志染町吉田	一般住宅1棟全焼

## 高速道路における火災発生状況

高速道路における火災は5件となっています。

発生 月日	火災 種別	覚知 時間	鎮火 時間	発生場所	火災状況
4/18	その他	21:34	22:06	山陽自動車道下り16.3K P	山陽自動車道下り16.3K P南東側法面40㎡が焼損した。
4/26	その他	11:09	11:28	山陽自動車道上り19.0K P	山陽自動車道上り19.0K P中央分離帯の枯れ木及び枯草1㎡、ガードレール支柱一部が焼損した。
7/1	その他	15:18	15:43	山陽自動車道西神線下り2.3K P	山陽自動車道西神線下り2.3K P中央分離帯の植栽部の枯草40㎡が焼損した。
7/17	車両	15:45	15:57	山陽自動車道西神線上り3.0K P	14 tトラックのマフラーカバーが焼損した。
8/27	車両	8:27	9:04	山陽自動車道上り三木S A	13 tトラックの左側2軸目タイヤハウス及び直上の側板一部が焼損した。

## 消防部隊出動状況（対前年比）

部隊出動件数は、昨年より30件増加の305件となっています。

署 別	本 署		広野分署		吉川分署		合 計		
種 年	令和 7年	令和 6年	令和 7年	令和 6年	令和 7年	令和 6年	令和 7年	令和 6年	増 減
警 戒	132	114	60	58	106	100	298	272	26
応 援	2	0	2	0	1	0	5	0	5
風 水 害	1	1	1	0	0	2	2	3	△ 1
合 計	135	115	63	58	107	102	305	275	30

△印は減少

※「警戒」 偵察・煙火・自火報・誤報・救急支援・油処理・ガス漏洩・その他

「応援」 近隣応援(境界、管轄高速道への出動)・兵庫県広域応援・緊急消防援助隊

# 令和 7 年中の救急・救助概要

## 1. 概況

令和 7 年中の救急出場件数は 4, 549 件（前年比 5 件、0. 1 % 増）で、搬送人員は 4, 177 人（前年比 44 人、1. 1 % 増）と、いずれも昨年より増加し過去最高件数となりました。

1 日の平均出場件数は 12. 5 件（前年比 0. 1 件増）で、市民約 16 人に 1 人が救急車を利用したことになります。

令和 7 年中の救助出動件数は 103 件（前年比 17 件増）となっています。

## 2. 救急出場件数

### （1）救急出場件数

出場件数は 4, 549 件で、昨年より 5 件増加となりました。

### （2）発生地区別出場件数

三木地区の 1, 345 件（29. 6 %）が最も多く、続いて自由が丘地区 638 件（14. 0 %）、緑が丘地区 453 件（10. 0 %）、別所地区 430 件（9. 5 %）の順となっています。

### （3）事故種別出場件数

事故種別では急病 2, 890 件（63. 5 %）が最も多く、続いて一般負傷 774 件（17. 0 %）、転院搬送 369 件（8. 1 %）、交通事故 296 件（6. 5 %）の順となっています。

### （4）月別・曜日別・時間別状況

月別では 1 月の 480 件が最も多く、続いて 12 月の 416 件、7 月の 410 件の順となっています。最も少ないのは 9 月の 324 件です。

曜日別では日曜日の 685 件が最も多く、続いて木曜日の 664 件、月曜日の 657 件です。最も少ないのは火曜日の 615 件です。

時間別では 10 時台の 363 件が最も多く、続いて 11 時台の 312 件、9 時台の 290 件です。最も少ないのは 1 時台の 59 件です。

### （5）現場到着所要時間（覚知～現場到着）

平均所要時間は 8. 8 分（前年 8. 6 分）、5 分以上 10 分未満のものが 2, 836 件（62. 3 %）と最も多く、続いて 10 分以上 20 分未満が 1, 345 件（29. 6 %）となっています。

### （6）病院収容所要時間（覚知～病院収容）

平均所要時間は 44. 3 分（前年 44. 5 分）、30 分以上 60 分未満のものが 2, 923 件（70. 0 %）と最も多く、続いて 60 分以上 120 分未満が 625 件（15. 0 %）となっています。

## 3. 救急搬送人員

### （1）傷病程度別搬送人員

軽症 2, 254 人（54. 0 %）、中等症 1, 769 人（42. 4 %）、重症 95 人（2. 3 %）、死亡 59 人（1. 4 %）の順となっています。

## (2) 事故種別年齢別搬送人員

急病の2,629人(62.9%)が最も多く、続いて一般負傷716人(17.1%)の順となっています。

また、年齢別では65歳以上の高齢者が2,894人(69.3%)を占めています。

## (3) 性別科目別搬送人員

男性2,237人(53.6%)、女性1,940人(46.4%)で、297人男性を多く搬送しています。

内科2,247人(53.8%)が最も多く、続いて脳神経外科733人(17.5%)、整形外科706人(16.9%)の順となっています。

## 4. 応急処置件数

搬送人員4,177人に対して、応急処置を実施しており、応急処置件数は、延べ18,169件となっています。

血中酸素飽和度測定と血圧測定が多く、救急救命士による傷病者の蘇生等のために行う特定行為は166件(前年比16件減)となっています。

## 5. 救助件数

### (1) 救助出動状況

出動件数は103件(前年比17件増)で、救助人員42人(前年比4人増)となっています。事故種別では、建物等による事故が47件(45.6%)と最も多く、続いて交通事故28件(27.2%)となっています。

### (2) 地区別救助出動件数

三木地区が32件と最も多く、続いて吉川地区15件、自由が丘地区が12件となっています。

### (3) 発生場所別救助出動件数

住居での事故等が51件(49.5%)で、道路での事故が24件(23.3%)となっています。

## 6. 救急業務の高度化

高度救急資器材の整備に努めるとともに、気管挿管、薬剤(アドレナリン)投与、心肺機能停止前の輸液、低血糖発作傷病者へのブドウ糖投与が行える認定救命士の養成を行っています。

救急業務に携わる職員に対する専門的知識の取得及び技術を向上させるため、指導救命士の養成を行い、救急救命士の教育体制の構築を行っています。また、医師による指導、助言、後検証、再教育等、メディカルコントロール体制の充実を図っています。

## 7. まとめ

救急出場件数は4, 549件で、前年の出場件数より5件増加して過去最高となりました。

全搬送人員に占める高齢者の比率は69.3%（前年68.7%）となっています。

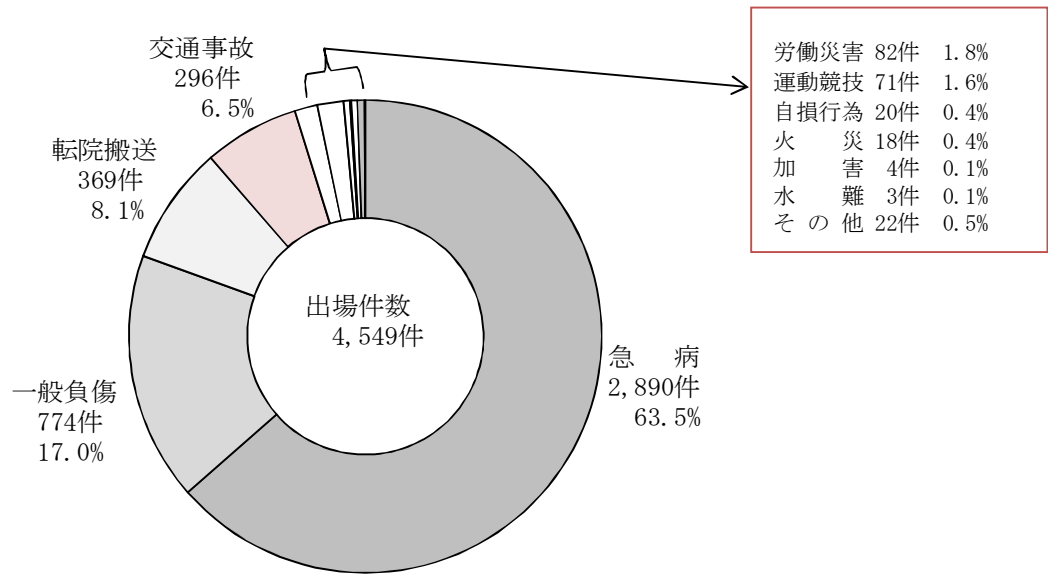
救命率の向上には、その場に居合わせた人による適切な心肺蘇生法と早期除細動（AED）が必要不可欠であることから、応急手当普及員の育成に努めるとともに、救急法講習会、普通救命講習、上級救命講習を継続的に開催していきます。また、広報等を通じて救急車の適正利用など救急業務への正しい理解と協力を求めています。

救助出動件数については、建物等による事故が近年増加傾向にあり、過去5年間の救助出動件数431件のうち217件と全体の50.3%を占めています。主に一人暮らしの高齢者に対する安否確認による出動となっています。



## 救急出場件数

救急出場件数 4,549 件のうち急病が 60% 以上を占め、続いて一般負傷の順となっています



## 発生地区別出場件数

三木地区が最も多く、続いて自由が丘地区となっています。

地区	年	令和 7 年	令和 6 年	令和 5 年
出 場 件 数		4,549	4,544	4,420
三 木		1,345	1,308	1,286
三 木 南		421	440	401
別 所		430	396	397
志 染		348	351	302
細 川		167	149	160
口 吉 川		84	103	100
緑 が 丘		453	488	459
自由が丘		638	638	608
青 山		210	178	225
吉 川		412	451	436
高 速 道		36	37	39
そ の 他		5	5	7

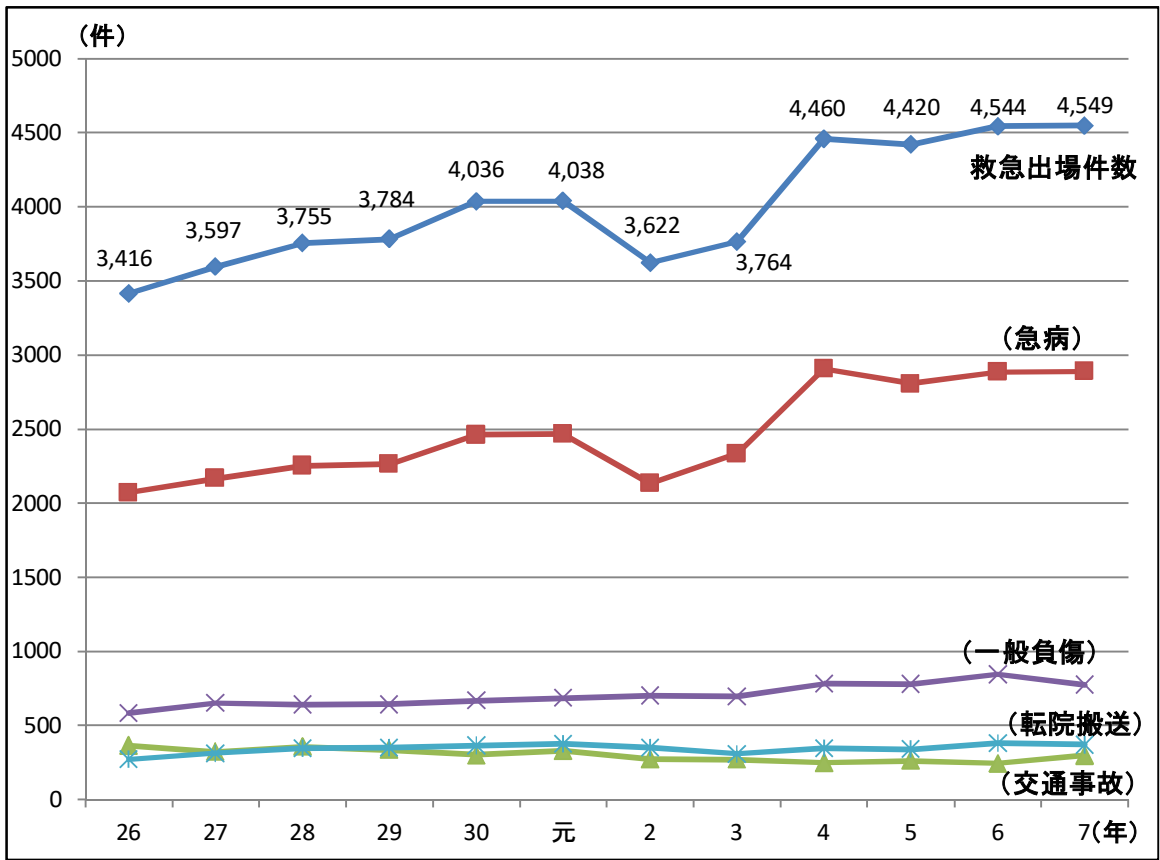
## 署別救急出場件数

出場割合は、本署 54.8%、広野分署 34.0%、吉川分署 11.2%となっています。

事故種別	署別	本 署	広 野	吉 川
火 災		11	4	3
自 然 災 害		0	0	0
水 難		1	2	0
交 通 事 故		191	77	28
労 働 災 害		56	15	11
運 動 競 技		27	30	14
一 般 負 傷		417	270	87
加 害		3	1	0
自 損 行 為		12	5	3
急 病		1,561	999	330
そ の 他		214	144	33
合 計		2,493	1,547	509

救急出場件数の推移

救急出場件数は4, 5 4 9 件で、前年比 5 件増加となっています。



事故種別救急出場件数

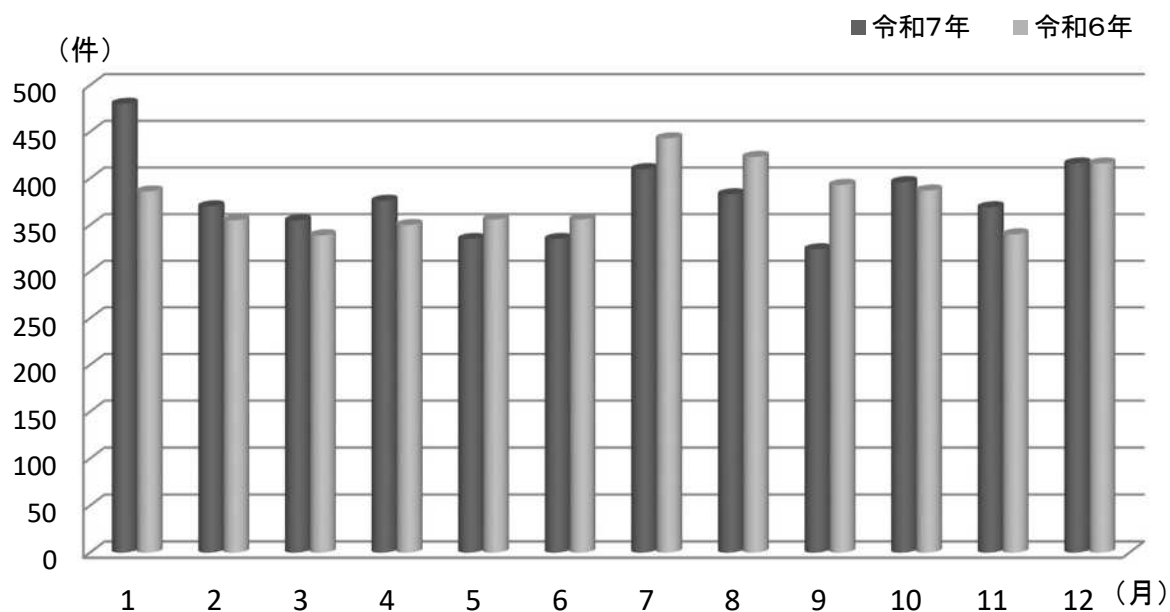
一般負傷が昨年より 7 1 件減少し、交通事故が 5 1 件増加しています。

事故種別		令和 7 年	令和 6 年	増 減
火 災		18	7	11
自 然 災 害		0	0	0
水 難		3	0	3
交 通 事 故		296	245	51
労 働 災 害		82	81	1
運 動 競 技		71	52	19
一 般 負 傷		774	845	△ 71
加 害		4	23	△ 19
自 損 行 為		20	20	0
急 病		2, 890	2, 886	4
そ の 他	転院搬送	369	381	△ 12
	医師搬送	0	0	0
	資器材搬送	0	0	0
	そ の 他	22	4	18
合 計		4, 549	4, 544	5

△印は減少

## 月別救急出場件数

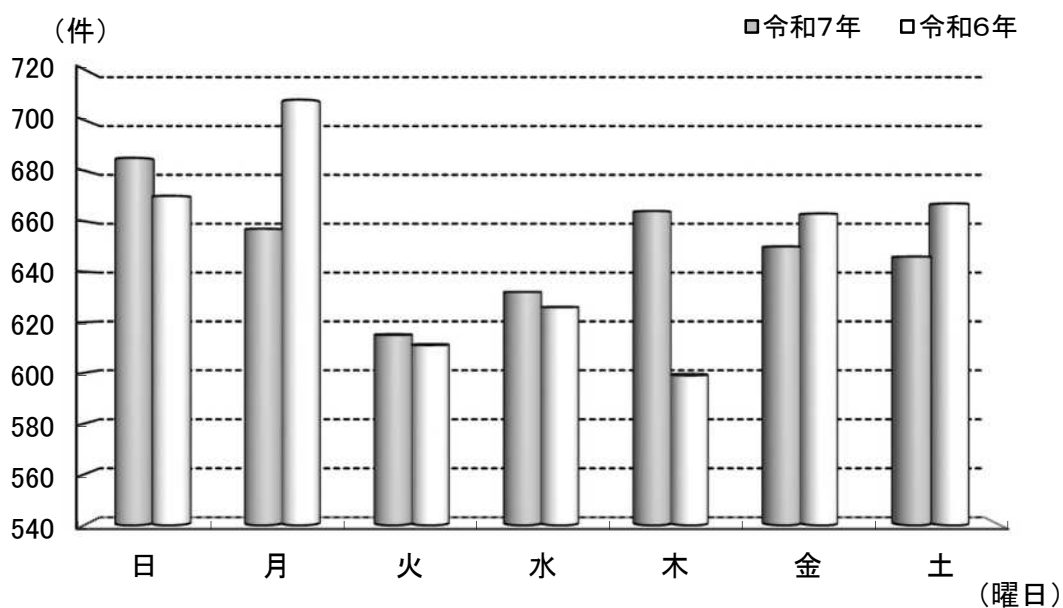
1月が最も多く、続いて12月となっています。最も少ないのは9月です。  
1ヶ月平均379.0件、1日平均12.5件出場しています。



年\月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和7年	480	370	355	376	335	335	410	383	324	396	369	416	4,549
令和6年	386	355	339	350	356	356	443	423	393	387	340	416	4,544

## 曜日別救急出場件数

日曜日が最も多く、続いて木曜日となっています。最も少ないのは火曜日です。

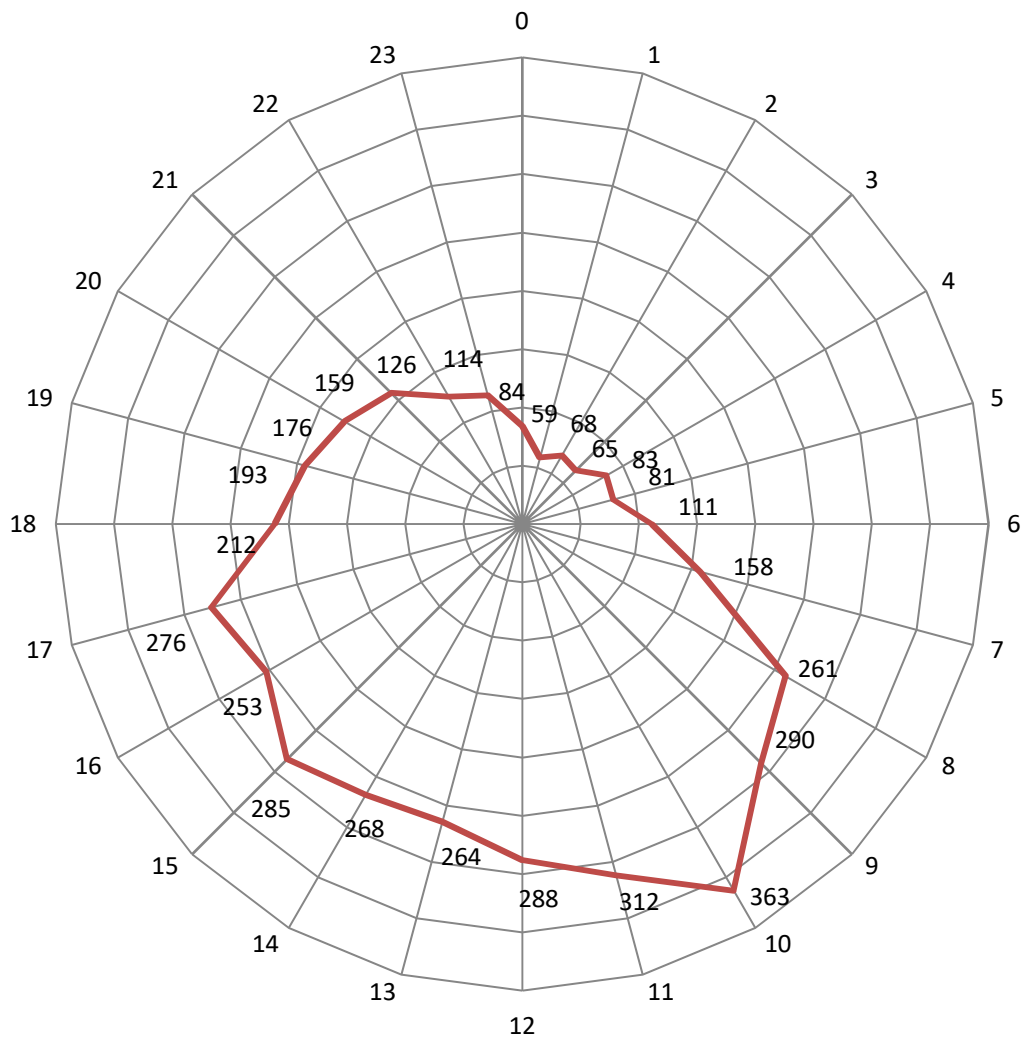


年\曜日	日	月	火	水	木	金	土	合計
令和7年	685	657	615	632	664	650	646	4,549
令和6年	670	708	611	626	599	663	667	4,544

# 時間別救急出場件数

10時台が最も多く、最も少ないの1時台です。

救急出場件数 4,549件



## 現場到着所要時間別救急出場件数（覚知～現場到着）

現場到着所要時間の平均は8.8分です。5分以上10分未満で現場到着したものが2,836件で全体の62.3%を占めています。

事故種別 \ 所要時間	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	計	平均時間 (分)
急病	11	112	1,865	848	54	2,890	8.8
一般負傷	6	21	495	233	19	774	8.9
交通事故	3	13	156	112	12	296	9.8
その他	5	95	320	152	17	589	8.3
合計	25	241	2,836	1,345	102	4,549	8.8

## 病院収容所要時間別搬送人員（覚知～病院収容）

病院収容所要時間の平均は44.3分で、最も多いのが30分以上60分未満の2,923人で全体の70.0%を占めています。

所要 時間 事故 種別	10分 未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分以 上	計	平均時間 (分)
急病	0	10	385	1,941	282	11	2,629	42.6
交通事故	0	1	21	168	100	1	291	54.1
一般負傷	0	2	67	463	184	0	716	49.3
その他	0	3	127	351	59	1	541	41.0
合計	0	16	600	2,923	625	13	4,177	44.3

## 事故種別救急搬送人員

交通事故が76件増加、一般負傷は51件減少しています。

事故 種別 年	火 災	自然 災害	水 難	交通 事故	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加 害	自 損 行為	急 病	そ の 他	合 計
令和7年	9	0	3	291	79	69	716	2	12	2,629	367	4,177
令和6年	1	0	0	215	80	50	767	16	12	2,611	381	4,133
増 減	8	0	3	76	△ 1	19	△ 51	△ 14	0	18	△ 14	44

△印は減少

## 傷病程度別救急搬送人員

軽症2,254人（54.0%）、中等症1,769人（42.4%）、重症95人（2.3%）、死亡59人（1.4%）の順となっています。

傷病 程度 事故 種別	火 災	自然 災害	水 難	交通 事故	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加 害	自 損 行為	急 病	そ の 他	合 計
死 亡	1	0	1	0	0	0	0	0	2	55	0	59
重 症	0	0	0	9	3	0	3	0	1	72	7	95
中等症	4	0	1	58	27	11	226	0	5	1,080	357	1,769
軽 症	4	0	1	224	49	58	487	2	4	1,422	3	2,254
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	9	0	3	291	79	69	716	2	12	2,629	367	4,177

## 発生場所別救急出場件数

住宅での発生が2, 588件で全体の56.9%を占め、そのうち急病によるものが81.8%です。

発生場所 事故種別	住宅	公衆出入 場 所	仕事場	道路	その他	合 計
急 病	2,116	532	83	106	53	2,890
交通事故	3	14	1	275	3	296
一般負傷	423	146	4	139	62	774
そ の 他	46	450	78	4	11	589
合 計	2,588	1,142	166	524	129	4,549

## 事故種別年齢別搬送人員

高齢者（65歳以上）の搬送が2,894人で全体の69.3%を占めています。

年齢別 事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	合 計
新生児（28日未満）	1	0	0	0	1
乳幼児（28日～6歳）	98	10	32	1	141
少 年（7歳～17歳）	59	22	17	36	134
成 人（18歳～64歳）	554	160	116	177	1,007
高齢者（65歳以上）	1,917	99	551	327	2,894
合 計	2,629	291	716	541	4,177

## 性別科目別搬送人員

性別では男性が多くなっています。科目別では内科が2,247人で最も多く、続いて脳神経外科、整形外科の順となっています。

科目別	外科		整形外科		脳神経外科		内科		小児科		精神神経科	
性 別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員	155	73	331	375	417	316	1,183	1,064	95	48	2	6
科目別	産婦人科		眼科		耳鼻咽喉科		泌尿器科		その他		合 計	
性 別	女		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員	16		7	6	8	14	34	20	5	2	2,237	1,940

## 高速道路における救急活動状況

高速道路別		事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	合 計
中国道	出動件数		4	1		1	6
	搬送人員		4	1		1	6
	不搬送件数						0
舞鶴道	出動件数		1				1
	搬送人員		1				1
	不搬送件数						0
山陽道	出動件数		15	9	4	1	29
	搬送人員		13	9	3	1	26
	不搬送件数		2	1	1		4
合計	出動件数		20	10	4	2	36
	搬送人員		18	10	3	2	33
	不搬送件数		2	1	1	0	4

## 応急処置件数

応急処置		事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	合 計
応急処置対象人員(人)			2,629	291	716	541	4,177
止	血		16	20	72	21	129
被	覆		7	50	184	37	278
固	定		13	119	76	32	240
保	温		57	11	9	11	88
酸	素	吸 入	627	20	27	116	790
人	工	呼 吸				1	1
胸	骨	圧 迫					0
心	肺	蘇 生	86	1	1	5	93
在	宅	療 法 継 続	42		3		45
血	圧	測 定	2,529	288	706	535	4,058
聴	診	器	733	102	71	88	994
血	中	酸素飽和度測定	2,554	290	713	537	4,094
心	電	図 測 定	2,096	124	291	352	2,863
気	道	確 保	154	2	5	10	171
	経	鼻エアウェイ	1				1
	喉	頭鏡・鉗子	1		1		2
	*	ラリゲアルマスク等	50			1	51
	*	気 管 挿 管	5		1		6
		以 外	97	2	3	9	111
除	細	動	13				13
*	静	脈 路 確 保	61	3	2	3	69
	*	うち心肺機能停止前	6	2	1		9
	*	うち心肺機能停止後	55	1	1	3	60
*	薬	剤 投 与	31		1	1	33
血	糖	測 定	16				16
*	ブ	ドウ糖 投 与	2				2
そ	の	他	2,627	292	723	550	4,192
合	計		11,664	1,322	2,884	2,299	18,169

\*印は、救急救命士の特定行為

## 救助出動状況

出動件数 103 件で前年比 17 件増加し、救助人員についても 42 名で前年比 4 名増加しています。

区分 年別	出動件数 (件)	活動件数 (件)	救助人員 (人)	出動台数 (台)	出動人員 (人)
令和 7 年	103	64	42	304	858
令和 6 年	86	58	38	230	659

## 地区別救助出動件数

三木地区が 32 件と最も多く、次に吉川地区の 15 件となっています。最も少ないのは青山地区の 1 件です。

地区	種別	火災	交通事故	水難事故	機械による 事故	建物等による 事故	その他	合 計
三 木		3	6	2		16	5	32
三 木 南			3			8		11
別 所		2	1	1		3		7
志 染		1	4			2		7
細 川		1	2				1	4
口 吉 川			1				1	2
緑 が 丘		2	1			7		10
自由が丘		2	2			8		12
青 山						1		1
吉 川		3	6		1	2	3	15
管 外								0
そ の 他			2					2
合計	出動件数	14	28	3	1	47	10	103
	活動件数	14	12	3	0	28	7	64
	救助人員	3	16	3	0	13	7	42

## 発生場所別救助出動件数

住居での事故が 51 件で全体の 49.5% を占め、次に道路での事故が 24 件となっています。

場所	種別	火災	交通事故	水難事故	機械による 事故	建物等による 事故	その他	合 計
屋 内	住 居	5				46		51
	その他	6					1	7
屋 外	高速道		2					2
	道 路		24					24
	池川等		2	3			2	7
	その他	3			1	1	6	11
地 下								0
そ の 他							1	1
合 計		14	28	3	1	47	10	103